

入試における実技試験について*

歯科補綴学第二教室 佐藤 勝也

48年2月に労働者の一般職業適性検査を参考に、次の実技試験を実施した。すなわち〔Ⅰ〕は輪ゴムを組合せて鎖を作らせ、15秒間で輪ゴムの使用した数をもって成績とした。(第1図)〔Ⅱ〕はマンドレールにペーパーディスクを組立てて、1分間で何本できたかその数を記録した。(第2図)〔Ⅲ〕はバースタンド上のバーを上段から下段へさしかえ、1分間で何本移動できたかその数を記録した。(第3図)〔Ⅳ〕はボルトとナットを手さぐりで(ブラインドの状態)1分間に何本組立てたか、その数を記録した(第4図)。第1図に於て、左ききは数が多い方も少ない方にも平均に分布しているので、成績が特によいとも、悪いとも判定の資料にならない様に思われた。各作業の間に特に強い相関関係はない様に思われた。然し

この実技試験が他の学課試験とどのような相関があるか調査の必要があると考えられる。

また人間の眼の判断力が、どのような正確さをもっているか他の集団について、125×88mm(B7版)と177×125mm(B6版)の大きさの紙2種に目分量で中心点をつき、これが真の中心点からどの位はずれているか、又上顎中切歯の歯冠の長径と幅径の比および歯根長との比が、バランスがとれているかどうか、実物大に画かせそれを計測した。これらのことがらが、実技試験とどう結びつくか、また教育が進むにしたがって、どのように成績が変化してゆくか、今後調査する必要があると考えられた。以上の条件を満足する実技試験とはどのような因子をそなえたものであろうか、今後の研究をまちたい。

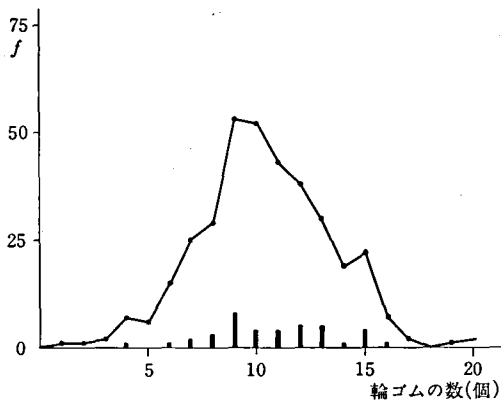


図1 輪ゴムの組合せ
(棒グラフは左ききの場合の成績を示す。)

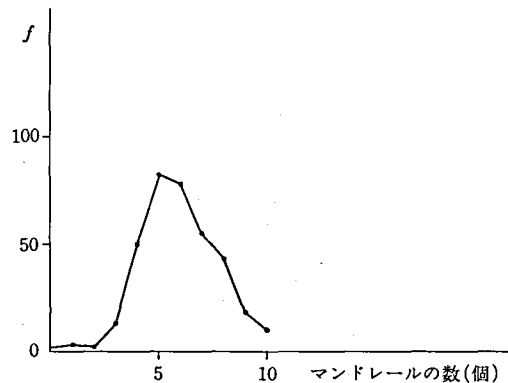


図2 ペーパーディスクとマンドレールの組立

* 第4回, 昭和48年3月23日開催

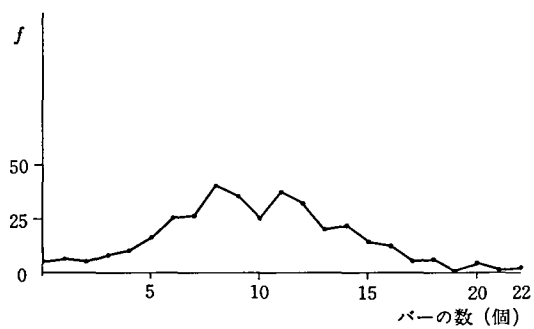


図3 バースタンド上のバーのさしかえ

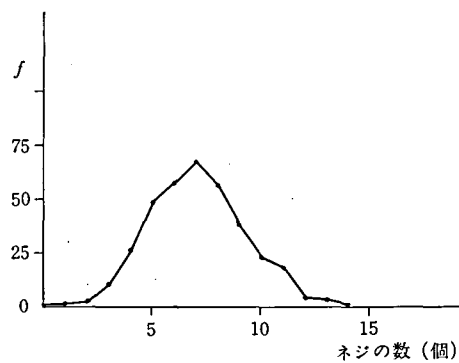


図4 ネジの組立